

近況報告書

Loyola 大学医学部一般内科/インターン 平井大士

Loyola 大学で研修を開始して、2 か月経過しました。ここまでの研修経過を簡単にまとめたいと思います。

①Loyola 大学について

大学病院(Loyola University Medical Center) はシカゴのダウンタウンから、車で 20 分くらい西にいった Maywood という町にあります。医学部は 1909 年に創設され、もともとはダウンタウンにあったようですが、1968 年に大学病院とともに移転してきたそうです。Maywood の近くにはヘミングウェイが生まれ育った Oak Park という町があり、研修医はここかダウンタウンに住む人が多いです。

561 床の大学病院と 471 床の軍人病院(Hines VA Medical Center) が併設されており、研修医はこの 2 つの病院で主にローテーションを行います。患者さんの層は白人、黒人、ヒスパニック系など様々です。またカトリック系の病院だということも関係しているかもしれませんが、保険がなく病院にかかれぬ患者さんを診察するボランティアクリニックも定期的で開催されています。

②内科研修について

インターンは内科の研修医が 30 人でこのうち外国医学部出身者は各学年 1 人か 2 人です。チーフレジデントは 4 人いて、研修スケジュールやカンファレンスの予定をたてたりしてくれます。4 人ともとてもフレンドリーで質問しやすく、頼りになります。

今年から ACGME のルールが変わり、インターンは連続して 16 時間以上働けなくなってしまうため、内科の研修プログラムも大きく変わりました。今まではインターンは 4 日に 1 回は当直をしていたそうですが、今年からインターンは 4 週間病棟+1 週間外来のサイクルを繰り返し、基本的に当直はありません。

③病棟について

私は循環器コンサルトからスタートし、2 つ目の科は血液内科のコンサルトなので、まだ病棟業務は経験していません。コンサルトチームなので、短期間でフォローを終了していく分、たくさんの患者さんを診ることができます。

循環器コンサルトでは 3 週間半の間で 70 人程度の患者さんを診ることができ、たこつば心筋症や Wellen's 症候群、動悸のみでみつかった大動脈解離、右心不全など、さまざまな症例を経験することができました。指導医の先生も教育熱心で、またその場で質問できるので非常に勉強になりました。

現在は血液内科のコンサルトチームで勉強しています。化学療法について深く知

ることよりも、内科の研修医は易出血性、血小板減少、血栓症の患者さんに対しての鑑別診断と、診断の絞り込みが行えることが目標となっています。大学病院なので、市中病院からさまざまな患者さんが送られてきます。今まではあまり経験したことのない病気を経験でき、大学病院ならではの研修の良さを実感しています。

④外来について

上記でも述べたように、外来は今年から 1 週間連続して行います。毎日午前または午後の半日は継続外来といって、研修医が患者さんのプライマリケア医となり、3 年間継続的にフォローする外来があります。私の外来は軍人病院ですが、概してコンプライアンスが悪く、糖尿病や高血圧、心不全のコントロールが悪い患者さんが多く、ドラッグや PTSD の問題を抱えている患者さんも多いです。継続外来でみる患者さんは自分が責任を持ち、外来の週以外でも定期的に自分の患者さんの情報を確認し、必要があれば電話で連絡を取ったり、採血データの結果を送ったりします。研修医 1 人、1 人にナースが割り当ててもらえるので、受け持ち患者さんからの電話相談などはナースが受けたあとに、要点をこちらに伝えてくれます。

残りの半日は専門外来について、勉強します。私は循環器・糖尿病・乳腺外来・リウマチ外来が割り当てられています。

⑤まとめ

こちらに来るまでは大変なこともありましたが、やはり来てよかったなと思っています。私は日本で初期研修を終えてからこちらに来ることができましたが、初期研修で経験しことがこちらでも生きているなど感じています。特に麻酔科や外科、救急で勉強したことは内科の問題点だけにとらわれずに患者さんを診ることにつながっている気がします。ベッドサイドの手技やエコーなどは、こちらではほとんど経験することができないのでその点においても、3 年目で来るのはいいタイミングだったと思います。

今年は内科の勉強に集中するとともに、臨床研究にも少し関わってみたいと思っています。図書館のオンラインの文献データが充実していて、文献検索がしやすく、また臨床研究を行っている先生が多いことは、恵まれた環境だと思います。

日米医学交流財団には学生の頃からセミナーに参加させて頂き、また今回は助成金で支援して頂き、ありがとうございました。日米医学交流財団の皆さまとともに、これまでお世話になったすべての先生、みなさまに感謝致します。